

Topics

「奥の細道旅立ち330周年記念 セレモニー」が開催されました

8月24日、荒川ふるさと文化館で「奥の細道旅立ち330周年記念セレモニー」が開催されました。これは、松尾芭蕉が奥の細道へ旅立って330年を記念して行われたセレモニーです。

セレモニーでは、芭蕉のふるさと・三重県伊賀市で採火された「俳聖の火」が登場し、奥の細道の結びの地である岐阜県大垣市の小川市長から矢立初めの地である西川区長に渡される分火式が行われ、共同でシンボルモニュメント(行燈)に火が灯されました。

また、荒川ふるさと文化館・南千住図書館の正面玄関前では、東京藝術大学の卒業生グループ「A+(アプリアス)」が制作し、地域の子どもたちと一緒に完成させた3Dアートも紹介されました。



▲小川市長(左)と西川区長(右)



▲芭蕉と弟子・曾良の千住大橋の旅立ちを描いた3Dアート

「奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会」参加者(作品)募集

南千住が松尾芭蕉の「奥の細道矢立初めの地」であることにちなんだ俳句大会です。トーナメント方式で、相撲のように横綱(優勝)の座を競います。2月22日(土)にサンパール荒川小ホールで行われる千秋楽(本大会)を目指して、ぜひ、投句してください。対象/区内在住・在学の小学生 応募方法/1チーム2人1組で、2句の俳句(題は「春の季節」)を作成し、2人の住所・氏名・電話番号・学校名・学年・チーム名・チーム名の由来・意気込み(氏名とチーム名はふりがなも)を明記し、持参または郵送で、11月29日(金)必着

※選考の上、千秋楽出場チームを決定 ※応募作品は返却しません 応募・問合せ/〒116-0003荒川区南千住6-63-1荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

RECIPE あらかわの伝統野菜 三河島菜メニュー

三河島菜の 巣籠もりカレー

三河島菜は 11/16(土)の日暮里駅前開催の「にっぽりマルシェ」で購入できるよ ※売り切れ次第終了

<材料 1人前>

- 三河島菜……100g
- 人参……10g
- 油……適量
- 卵……1個
- 塩、胡椒……適量
- ご飯……お好みの量
- カレー……ご家庭レシピのカレー、市販のレトルトカレーなど

作り方(巣籠もりの巣の部分)

- 三河島菜は5cmの長さに切る。人参も5cmの長さの千切りにする。
- 熱したフライパンに油をひき、人参を入れ火が通ったら三河島菜を加えサッと炒め、塩、胡椒で味を調える。

巣籠もり玉子<生卵編>

- お皿にお好みの量のご飯を盛り、カレーをかけ、ご飯部分にBを丸く乗せ、真ん中をへこませて、生卵を入れる。

巣籠もり玉子<レンジでチン編>

- Aを少し深めの耐熱皿に丸く入れ、真ん中をへこませ、生卵を割り入れ、



つまようじで黄身の部分を軽く差し、ラップをかけ、電子レンジに入れ約2分加熱する。

- 巣籠もり玉子を耐熱皿から取り出し、軽く塩、胡椒を振り、お好みの量を盛り付けたカレーライスの上に乗せる。

巣籠もり玉子<半熟温玉子編>

- 卵を70℃のお湯で20~30分茹でる。
- お皿にお好みの量のご飯を盛り、カレーをかけ、ご飯部分にBを丸く乗せ、真ん中をへこませて、半熟温玉子を割り入れる。

<レシピ作成> あらかわやくしよちか 荒川区役所地下1階 レストランさくら

あらかわ 今昔ものがたり 日 [ばしょうくんと旅する奥の細道]

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



芭蕉さん、山形の絶景スポット「山寺」を訪ねる

芭蕉さんたちは、5月の中旬、出羽国(今の山形県・秋田県)に入った。道なき道、険しい峠も、地元の若者の案内でなんとか無事に越えられたんだ。その後、尾花沢(山形県尾花沢市)で、名産の紅花を扱う裕福な商人・清風さんの家に10日間も滞在し句会も開いたんだって。芭蕉さんは、お礼の挨拶として「涼しさをわが宿にしてねまるなり」と詠んだ。「ねまる」は楽に座するという方言だよ。のんびりして旅の疲れを癒やせたんだね。元気を取り戻した芭蕉さんは、尾花沢の人たちに一見の価値ありと勧められ、7里(約28km)ほど離れた「山寺」を訪ねることにしたんだ。

慈覚大師が開いた立石寺 芭蕉さんが、予定を変更してまで立ち寄った「山寺」は、天台宗の高僧・慈覚大師円仁が開いた立石寺(当時は「りゅうしゃくじ」と呼ばれた)というお寺。「山寺」の名の通り、奥深い山の中に幾つもの立派なお堂が見え隠れしている大きなお寺だよ。昔から出羽のパワースポットとして知られていたんだ。

「蝉の句」の誕生 芭蕉さんたちは、麓の宿坊に宿を取って、山の上のお堂に登ることになった。登りはじめると、巨岩が重なり大きな岩山をなし、松や檜などの老木が生い茂り、土や石も古めかしく苔が覆っている。岩の上に建つお堂は、全て扉が閉め切られていて、物音一つしない。芭蕉さんは、崖や岩を這うようによじ登りながら、山寺の山内を巡ったんだ。静まりかえった素晴らしい景色の中で、心が澄み渡って行くのを感じたんだって。その気持ちを詠んだ句が次の一句。

閑さや岩にしみ入蝉の声 芭蕉

芭蕉さんの奥の細道の旅の目当ての一つは、昔の歌人が和歌に詠んだ名所・旧跡を訪ねることだった。こういう場所を「歌枕」というんだ。芭蕉さんの「蝉の句」の誕生によって、「山寺」は俳句に詠まれた名所「俳まくら」になり、今もたくさんのお客が訪れる。芭蕉さんの奥の細道ファン、俳句愛好者が訪れる名所として賑わっているんだよ。



岩の上に建つお堂